



阿弥陀寺縁起と

がま口上研究会

大山 智子

今から八百年ほど前、浄土真宗祖親鸞聖人は那珂西大山の地に庵を結ばれました。今で云う栗山（現在の城里町栗山）で、城里町坏中学校入口に大山草庵跡の石碑が残っています。

その地で聖人は、三尊六高祖のご莊嚴を安置され、師法然上人の三回忌追悼会をお勤めになられたのが、阿弥陀寺の始まりとされています。

その後六百二十七年前に、額田城主小野崎従道の懇願により、大山から額田城の場内に移され、額田城の守護寺として現在に至っています。

寺の山門（楼門）を潜り抜けるとすぐ右手に、樹齢三百年以上になるしだれ桜があります（正確には江戸彼岸系桜）。毎年四月上旬、金・土・日満開の桜の下で桜祭りが開催されます。

『カーンカーンカッカカッ』拍子木の音が境内に響き、「がまの油売り」の口上が始まります。人々は足を止めて、その軽妙な口上に引き寄せら



れ、たちまち笑いと感動の中に入っていきます。
 そんながま口上研究会水戸教室との出会いは二年ほど前。月一回第一土曜日に練習場所として使っていたことからです。

その声を聞き、今では六歳と三歳の孫達も、ちやつかり一緒に口上の見学。お茶菓子まで・・・
 もしかしたら何年後、この子たちも「さあー、さあーお立合い・・・」なんて始まるかもしれません。



樹齢 300 年を超える見事なしだれ桜

二年程前に当教室会員の加藤さんの口添えにより、阿弥陀寺さんには、毎月第一土曜日の午前中、水戸教室の練習会場として無償でお部屋を提供していただいております。会員一同心より感謝しております。
 四月には見事な桜のもと「桜まつり」が開催されており、お礼の意味を兼ねて会員による「がまの油売り口上」の実演を行っています。

新緑の 筑波路めぐりハイキング

～筑波山 神の源郷を訪ねて～

「そろそろ長く歩くのも厳しくなってきたナ」とお考えの会員諸氏にも気軽にご参加いただきたいと、今回は長い経路は車に乗り合わせて移動します。人気の井坂先生の解説で、楽しく歩きましょう！ご家族・お友達も一緒にどうぞ。

申込：各会代表又は林会長へ 5 月 20 日(日)まで

コース：飯名神社—月水石—六所神社 等

案内人：郷土史家 井坂敦實 氏

持ち物：弁当、飲み物、タオル等

歩きやすい服装

* 小雨決行、荒天中止



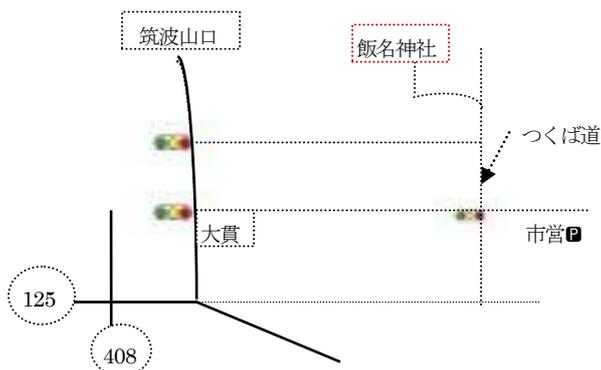
集 合

日時：平成 30 年 5 月 27 日（日）

9 時 30 分

場所：飯名神社 駐車場

つくば市白井 1 番



私とがま口上の出会いは、あがり症で話が苦手だった在職時代、何とか克服しようと思つた「がまの油」口上を聞き覚え、社内技術発表や必要なら挨拶のための発声練習、話術の訓練として口ずさんでいたことからです。

機会あつてがま研の講座に参加、修了証書をいただき、何時かは自分も口上師デビューをしたいと思つてはいたものの仕事の忙しさや、趣味の家庭菜園、マラソン、ウォーキング、陶芸などで忙しく過しておりました。六十七歳で退職し、つくばね会の学習会にも参加できるようになり、やっと昨年デビューさせていたできました。古希も過ぎた私の趣味を生かした健康長寿の取組みを紹介させていただきます。

日本人の平均寿命は女性八十七歳、男性八十一歳と毎年記録更新し、介護保険の支払いも毎年増加する長寿社会の今、知力・体力・気力を鍛えて死ぬまで周りの人に世話にならずに、健康でボケずにコロリと行けたら幸せと思つた。私の今の生活は、知力は新たな挑戦はやっていないが、体力・気力の方は約三百坪の家庭菜園での野菜作りと、歩き・走り・筋トレ・陶芸・発声による健康維持に励んでいる。毎日六〜七キロの早朝ウォークと在職時代に仲間と始めた月例歩こう会も、この二月で三百十一回となり平均

楽しく面白く 鍛えて健康長寿

難波光男

年齢七十歳を超えた今でも毎回一五キロ程度、関東周辺の名所を巡り歩いている。走るは地元のレストラン、クラブに所属し、毎日曜十五キロ程の朝練で、各地の大会に参加している。

先日は守谷ハーフマラソンを走ってきた。筋トレは、「肉体の筋肉だけは鍛えれば衰えない」の説を信じ、週二回はジムに通つて五キロのランと器具を使つての各部位の筋トレやエクササイズに励んでいる。

指先を鍛え作る喜びも味わえる陶芸も公民館のクラブに所属し、年二回の作陶展に出品し楽しんでる。発声による健康維持として楽しんでるのが詩吟・カラオケ・がま口上。詩吟・カラオケは、同好会にも入り毎週練習に励んでいる。がま口上は、つくばね会月例会への参加と朝のウォーク時に、冬は暗い中、周りの人影を気にしながら大声を張り上げて、農道や小貝川の土手を歩いて練習している。その日の口上の出来不出来で体調が確認できるのも面白い。また口上の小道具



は刀とがまの置物以外、諸先輩の小道具類を参考に手作りして、見栄えはしないものの金をかけず、自分好みの道具作りを楽しんでいる。

このような生活のお蔭で畑仕事や走り過ぎて腰や膝の筋肉痛以外は、大病を患うことなく、薬のお世話にもならず過ごしてきた。今年、四国八十八カ所歩き遍路(約千二百キロ)の挑戦を計画している。

これから何十年生きられるかわからないが、これらの趣味を生かして人生楽しく、「面白く健康でボケずに頑張っていきたいと思つている。



編集後記

多くの会員の熱意と多芸ぶりに圧倒された本号です。震災から七年、復興と風化そして加齢の現実が待ったなしなのは、我々の日常も同じです。大いに抗って、生き生きと日々を送りたいものです。楽しい情報をお待ちしています。今回は紙面の都合で中面に配置をさせていただきました。

編集子

小町塾に入って

村松 章 好

私の故郷は栃木県足利市です。遠景に赤城山が見え、ご存じ「かかあー天下に空つ風」の本場です。冬は風が強くとも寒いです。その風が、いわゆる「赤城おろし」であり、冬日の名物です。

家はぼる屋で中学校が西側に有ったので校庭からの風が校庭の土を運び、先が見えないくらいに砂塵に覆われます。それが家屋に入りトイレなど砂漠状態でした。雪はあまり降りませんが、赤城山からの「風花」が時々降った記憶があります。特に冬は赤城山の雪景色がとてもきれいです。

私は東京勤めを終へ、すでにこの土地「かすみがうら市」で三十三年の程の所在になりました。定年後茨城に来て、少しでも地元の事を知ろうと画策していたところ、地元紙「常陽リビング」に林先生の「がま口上」の講習の案内が入り受講させていただきました。その後は、本部からのお知らせの、散策や忘年会だけはできるだけ参加して楽しんでおりました。でも「浮浪者」だったのでどこにも所属せずにもありました。しかし所属しないとなかなか練習の機会もありません。せっかくな林先生や諸先輩方に教えていただいた「がまの油売り」口上が無用になってしまふのではと思ひ、小町塾に入会させていただいたのは、受講の五年後でした。

頭では少し覚えたと思っても先輩たちの前では途中で忘れ、次の言葉が出て来ません。頭が真っ白（自分は毛が無くハゲ頭）他の方々からお声をかけ

てもらう状態です。時間はあるのでゆっくり、と思いつつも焦る気持ちで、十分程の口上文を覚えられないんだらうか？と不安になりました。

自分の性格は好奇心ばかりが先行し、やることなすことがちぐはぐでバラバラ。「継続は力なり」と申します。また失敗から学ぶと自分に言い聞かせながら、自分の体と大きな声で工夫をして、皆さんに楽しんでもらえる芸にしたいと思っています。諸先輩から教えていただいた自分自身こそ楽しんで。

この三月にデビューする予定です。今年の年賀状に『すでに脂汗がタラーリタラーリと出ています』と書きましたら、ある先輩から男は度胸、泰然自若で、との応援賀状をいただき心強く思っています。

格好は？刀は小道具や仕掛けは？楽しみながらそろえてきました。剣道着でのスタイルで細かなものも準備しました。また「ガマの横幕」と「のぼり旗」は関係先と打ち合わせして今風のインクジェットでの印刷方式で、ヨコ二枚とタテ二枚計四枚を作成しました。コスト一枚当たり五千円程度でした。

「さーさーお立会い」「立たない人もよつてきなみんな「わろてんかー」面白おかしく、少しまじめに！



楽しみながらそろえた小道具の数々

筑波山がましース2017、果敢に参戦！

山口 陽 弘

平成二十九年八月十一日、山の日。この日、恒例の「筑波山がま祭り」が開催され、その中のイベントである「筑波山がましース（通称TGR）」に、初めて参戦した。つくばマラソン、かすみがうらマラソンにも毎年出場し、また「がまの油売り口上」に

勤しむ私としては、このレースは見逃せない。出るしかない。年頭から、走破すべき次のターゲットをこのTGRに定めていた。筑波神社の大鳥居から随神門までを駆け抜けるコースは、全体が上り坂で最後は急な石段である。相当手強いと思いつつも、距離はわずか五百メートル。健脚自慢の私の目標はあくまでも優勝だ。

会場を目指し、筑波山を車で登る。麓から山道に差し掛かるとすぐに霞に包まれ、前がよく見えない。車を降りると、八月とは思えない寒さに体がぞくぞくとする。まさにこれから行われるレースを暗示しているかのようだ。受付で参加料千円を支払い、ガマの「被り物」をもらう。（実はコレが欲しかった！）。出走者全員がこの被り物を着用して走るのである。それからスタート位置を決める抽選。引き当てたのはゼッケン二四番、四列目からのスタートである。良くはないが、ひどく悪い訳でもない。チャンスはある！と、この時はそう信じていた。

スタート前、参加選手が集まり筑波山神社拝殿で祈禱を受ける。そしてルール説明のあと、いよいよ大鳥居のスタート地点へ。隣のゼッケン二十五番は陸上部員の中学生。昨年の覇者だという。見るからに速そうだし、やる気に満ち溢れている。うーん、こりやちよつと勝てないかな。準優勝？まあ五位ま

でなら商品が出る、などと勝手な予想を立てていると、よいいドンで一斉にスタート!

百メートルほどの間に首尾よく数人を追い抜くと、先頭を走る選手が見えた!よし、ここから全速力だ!と思ったのが私のピークであった。だんだん坂道の傾斜がきつくなり、あれ?と思うと、一人に抜かされた!そうなるともういけない。きつい坂道に足がついていかない。また一人、その後も。何のこれしきと思えども、最後の石段は心臓が飛び出るかと思うばかりの心拍で、足はフラフラ。ゴール時はフルマソン完走と同じくらいの疲労感。しかし達成感はなく無し。気が付くと、最後のランナーであろうか、沿道から盛んな拍手。見ると、がまの油売り口上師の出で立ちのランナーが悠々と闊歩している。天晴れ!

私の順位は判定不能(着外)でしたが、その後行われた抽選会で、日升庵(大鳥居近くのカフェ)の「せんべい手焼き体験招待券(ペア)」をゲット。後日うかがって、美味しくいただきました。火鉢で焼くお煎餅、これはオススメです。

TGRは次回必ずリベンジ!待ってるよー!



がまの被り物がよく似合う!!



口上定期開催場所 下妻道の駅

下妻道の駅にてがまの油売り口上を、つくばね会・小町塾で合同開催して二年目に入りました。毎月第二土曜日をつくばね会、第四土曜日を小町塾で担当して、多くの来場者に楽しんでいただいております。そこで今回、感謝の意味を込めて下妻道の駅を紹介させていただきます。

下妻道の駅は国道二九四号線沿いに平成十一年に誕生し、本年度で十九年を迎えております。圏央道開通を見込んだ観光客の取り込みと、市民が日常的に使用できるような魅力のある道の駅とするため、平成二十七年九月にリニューアルオープンがなされました。

- 下妻道の駅の魅力を挙げると
- 1 地元の出荷組合員が提供する安心・安全な野菜を提供する農産物直売コーナー(写真左上)
 - 2 当駅内の納豆工場で製造している「しもつま納豆福よ来い」
 - 3 下妻産「常陸秋そば」を用いたそば打ち名人による本格手打ちそば
 - 4 女性に人気の焼きたてパンを提供するベー



カーリーショップ(写真左下)

こうした魅力に一味加えているのが、イベント行事です。その一つががまの油売り口上は、茨城を訪れた観光客そして下妻道の駅を常日頃利用してくださるお客様に、楽しいひと時をすごしていただく場を提供することを目的に行われています。

下妻道の駅の荒川駅長から「多くの来場者より『筑波山まで行かなければ見られないがまの油売り口上を見ることができて、楽しむことができ』との声をいただき、今後も下妻道の駅の名物イベントとして来場者の更なる増加に貢献していきたい」と期待が寄せられております。



お世話になっている荒川店長

下妻道の駅は 天候に左右されない室内・屋外、どちらでも実演可能であり、計画的な日程を組むことができ、且つ多くの来場者が来る施設で、公演にとつてベストな開催場所です。また来場者に関して、観光客と日常利用者二種類の客層からなり、年齢も子供から大人までおり、年齢に応じた口上を行う必要が出てくる。極めて実践的経験を積める有用な開催場所です。

日々 精進して下妻道の駅の期待に応えることこそ貴重な場所を提供いただいている下妻道の駅に対する御礼であると確信しております。

(小町塾 星野 和哉)